

# 曾根小だより



発行：新潟市立曾根小学校

新潟市西蒲区曾根 750 (〒 959-0422)

Tel.0256-88-3128 (代) Fax.0256-88-3129

E-mail:e803daikan@city-niigata.ed.jp

特別号 (学校評価のお知らせ)

HP <http://www.nishikawa-sone-e.city-niigata.ed.jp/>



## 令和6年度 学校教育ビジョン中間評価

日頃より当校の教育活動に御理解と御協力をいただきありがとうございます。保護者・地域の皆様の御協力により、令和6年も師走を迎えることができました。

当校は、学校教育目標「ともに かがやく」のもと「やる気と笑顔にあふれる子どもを育てる」を重点目標に教育活動に取り組んでまいりました。お知らせが遅くなりましたが、令和6年度前期教育活動の振り返り・学校教育ビジョン評価中間報告をお知らせいたします。

### 1 令和6年度の学校教育ビジョン評価報告 (前期)

	評価項目	達成率	評価
深学 める こと の に 関 心 を も ち 、 考 え を 広 げ ( 思 考 す る 力 )	① 課題を解決するために、自分から進んで考えている。 (児童アンケート No.4)	88.8%	A
	② ペアやグループ、学級全体で話し合うことを通して、考えを広げたり深めたりすることができている。 (児童アンケート No.2)	91.3%	A
	③ タブレット端末を使って、必要なことを調べたり、自分の考えをまとめたり、友だちに考えを伝えたりすることができている。 (児童アンケート No.3)	92.7%	A
	④ 生活科や総合的な学習で、地域のことについて学習するのは楽しい (児童アンケート No.5)	90.7%	A
	⑤ 生活科や総合的な学習で、自分の考えを追求しながら学習することは楽しい。 (児童アンケート No.6)	86.4%	A
	⑥ 上記①～⑤についての方策・手立てに着実に取り組み、児童への必要な指導・支援を行っている。 (職員評価の総合評価)	81.3%	B
活 動 の 個 性 を 求 め 合 い 、 協 力 す る 力 ( 協 働 す る 力 )	① 自分の学級は、みんなの話を大切に聞き合い、協力して学習したり助け合って生活したりすることができる学級です。 (児童アンケート No.11)	88.7%	A
	② 学級の課題についてみんなで話し合い、めあてやきまりを決めて行動することで、学級がよくなってきていると感じる。 (児童アンケート No.12)	88.1%	A
	③ なないろ班の友だちとなかよく協力しながら活動している。 (児童アンケート No.13)	96.2%	A
	④ 「おはようございます」や「こんにちは」のあいさつ「ありがとう」や「ごめんなさい」の言葉を進んで伝えることができています。 (児童アンケート No.14)	93.8%	A
	⑤ 上記①～④についての方策・手立てに着実に取り組み、児童への必要な指導・支援を行っている。 (職員評価の総合評価)	93.3%	A

自分で考え、適切に判断・決定し、主体 的に行動する力の育成（自律する力）	① いろいろな活動に取り組むときは、自分が立てためあてや目標に向 かって、最後まで一生懸命取り組むことができる。 （児童アンケート No.16）	88.2%	A
	② 家では、テレビゲーム、インターネットやSNSを使う時間をよく 考え、十分な睡眠を取るようになっている。（児童アンケート No.17）	77.3%	B
	③ その時、その場に合わせ、自分のためになることと他人のためにな ることを考えて行動している。（児童アンケート No.18）	90.6%	A
	④ 上記①～③についての方策・手立てに着実に取り組み、児童への必 要な指導・支援を行っている。（職員評価の総合評価）	80.0%	B
（多 様性 の理 解と 受容） 特別 支援 教育 の推 進	① 曾根小スタンダード（UDLチェックリスト）に基づいて、どの子 にも学びやすい学習環境を整備している。（職員アンケート）	86.5%	A
	② 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を確実に作成し、指 導・支援の実施状況を評価しながら見直しを図り、教育的ニーズを把握 し、適切な指導や必要な支援が行われるようになっている。 （職員アンケート）	96.3%	A
	③ 自分とはちがう感じ方やものの見方を大切に、みんなで助け合 い、支え合いながら生活している。（児童アンケート No.15）	88.1%	A

・【評価基準】達成率が、80%以上=A、70%以上～80%未満=B、Bに至らない=C

## 2 分析及び後期へ向けて

思考 する 力	校内研修計画に基づき授業改善に取り組んでいる。学習課題の設定の工夫への意識は高まって いるが、対話や協働の場面については引き続き改善が必要である。全国学テの結果から、基礎学 力の定着が喫緊の課題であることが改めて明らかになった。考える力を育む授業づくりと知識・ 技能の定着を両立させた授業を行う必要がある。地域素材を生かした総合的な学習の充実が図ら れている。探究的な学習過程を多く経験させることが今後の課題である。
協 働 する 力	教職員の教育・運営活動についての肯定的な評価が多く、取組が着実に進んでいるといえ る。いじめや問題行動の件数が減少傾向にあり、取組の成果が少しずつ表れてきているものと評 価している。児童アンケートの肯定的な評価の割合は、縦割り班活動への評価は 96.2%と特に 高く、学級の現状に関する評価（学級の協働、より良い学級へという手応え等）は 88%にとど まる。自分の学級への所属意識を高め、協働を促すための工夫が必要である。
自 律 する 力	目的をよく理解し、自分が目指すべき姿を明確にもって活動に取り組んでいることが、教職員 と児童のアンケート結果から分かる。困難なことや苦手なことを避け「やりたくないからやらな い」という児童に対して、自分の成長を自覚させ、自己実現への意欲を高めるための働き掛けを 継続する必要があると感じる。指標③「場に応じた、他者を意識した適切な行動」についての肯 定的な評価の割合は 90%超で、取組の成果が少しずつ現れてきている。
特 別 支 援	基礎的環境整備と「個別の教育支援計画」等の活用に基づく合理的配慮の取組が着実に進んで いる。関係団体の講師を迎えた具体的な事例に基づいた研修は、発達障害への理解を深め、効 果的な指導について全職員で考える機会となった。児童アンケートの「多様性の理解と協働」に 関する項目の肯定的な評価の割合は 88%と高いが、最上位の「そう思う」の割合は 52%にと どまる。児童の意識の啓発につながる働き掛けの工夫がさらに必要である。

曾根小学校のホームページにも掲載しております。あわせて御覧ください。

新潟市立曾根小学校ホームページ

<http://www.nisihikawa-sone-e.city-niigata.ed.jp/>

（文責 学校評価担当 佐藤 智範）